

福島県立医科大学附属病院再整備基本設計・実施設計に係る
プロポーザル審査委員会
【審査講評】

令和 7 年 5 月 28 日

福島県立医科大学附属病院再整備基本設計・実施設計業務
公募型プロポーザル審査委員会

委員長 石井 敏
副委員長 竹石 恭知
委員 小菅 瑠香
委員 前原 和平
委員 濱津 篤
委員 大平 弘正
委員 高橋 憲億
委員 藤島 初男

1 審査結果

福島県立医科大学附属病院再整備基本設計・実施設計業務に係るプロポーザル審査委員会は、厳正かつ公正な審査により、次の者を優先交渉権者及び次点者に選定した。

優先交渉権者	株式会社梓設計（B社）	593.0 点 / 800 点
次点者	株式会社山下設計(A社)	567.6 点 / 800 点

2 講評

本プロポーザルは、建設から 37 年が経過し、老朽化や狭隘化などが課題となっている附属病院病院棟（きぼう棟等）の建替えに当たり、柔軟な発想力、高度な設計・調整能力、病院建設に関する豊富な知識・経験及び質の高い建物を適正な建設費で整備するための資質を有する設計者を選定するものだった。

今回提出された技術提案書において、業務実施方針については、いずれの提案者も病院設計を熟知した経験ある技術者を配置し、建設工事を見据えた組織体制の構築が図られていた。

技術提案についても、いずれの提案者も各課題に真摯に向き合っており質の高い提案だったものの、建設コスト、提案の実現性やプレゼンテーション及びヒアリングでの説明の具体性に違いが表れ、評価の差につながった。

3 個別講評

(1) 優先交渉権者 株式会社梓設計（B社）

本提案は、「つながる」をテーマに、将来を見据えたもので、本病院が抱える課題の本質をよく理解しており、プレゼンテーションも要点を押え、メリハリがあり理解しやすい説明であった。

評価項目のうち業務実施方針では、病院 CM 担当を配置し、建設工事を見据えた組織体制を構築するとされており、併せて施工者へのサウンディング調査を複数回実施することで、次の段階の建設工事の入札不調対策により注力する点が評価された。また、設計の初期段階において全体のコスト縮減のためにコストマネジメントの手法を導入する点も評価された。

敷地計画では、中長期的な建替えが、南北の「かなた軸」を中心に展開されていく計画がシンプルで明快であり、併せて新病院棟の機能拡充を見据えた増築スペースを確保する点も評価された。

建物の平面計画では、地下を設けずに機能や動線の分離を図るトリプルコアの提案などコスト意識の高さに加え、機能の集約化や用途転用など将来を見据えた計画が評価された。

また、技術進歩への対応では、新病院棟部分を ZEB Oriented 相当とする目標の設定について具体的な説明があった。

一方で、病棟の計画は平面形を鼓型とする提案だったが、検討の余地があるとされた。

委員評価点及び価格点共に高く、かつA社を上回っており、今後設計を進めていくパートナーとしてふさわしいと認め、優先交渉権者に決定した。

(2) 次点者 株式会社山下設計（A社）

本提案は、「骨格づくり」をテーマに、コネクション棟を基点とした動線が将来にわたり明確に示されたものであった。

評価項目のうち業務実施方針では、プロジェクトマネジメント部との協働体制により、建設工事を見据えた組織体制を構築するとされている点が評価された。

敷地計画では、コネクション棟を基点とした将来の建替えプランが明快で、地階部分や既存の施設を上手く活用する点が評価された。

建物の平面計画では、地階に物流部門を一元化し、動線の分離が上手く図られている点が評価されたが、建設コストの増加が懸念された。

病棟の計画では、見守りを重視した十字型の形状の提案だったが、迷い易いのではないかとといった点に懸念が示された。

技術進歩への対応では、地階にロボットステーションを設けるなど搬送ロボットの導入に向けた具体的な提案が評価された。一方で省エネについては、積極的な提案だったが、具体的な説明がなされなかった。

全体的に丁寧と考えられ高い提案力があつたが、評価点合計でB社に及ばず次点者とした。

4 審査経過

(1) 一次審査

(ア) 日程 令和7年5月15日(木)

(イ) 場所 福島県立医科大学

(ウ) 審査経過

一次審査は、審査委員8名全員出席の下、次のとおり行われた。

- ・2者からの技術提案書について、提案内容の理解を深めるために意見交換を行った。
- ・委員の総意により、2者全てを一次審査の通過者として選定した。
- ・B社の技術提案書に記載の別案は、仕様書の設計と条件に適合しない内容であるため、評価の対象外にすることと整理された。

(2) 二次審査

(ア) 日程 令和7年5月21日(水)

(イ) 場所 福島県立医科大学

(ウ) 審査経過

二次審査は、審査委員8名全員出席の下、次のとおり行われた。

- ・一次審査を通過した2者に対し個別にプレゼンテーション(20分間)及びヒアリング(30分間)を実施し、委員の採点により優先交渉権者にB社(株式会社梓設計)を選定し、次点者にA社(株式会社山下設計)を選定した。

評価項目		配点	A社	B社
①業務実施方針		80点	58.0点	63.0点
②各課題テーマに対する技術提案	ア 敷地計画	192点	136.8点	135.2点
	イ 建物の平面計画	288点	205.2点	208.8点
	ウ 技術進歩への対応	96点	69.2点	62.8点
	エ その他設計者として提案したい事項	64点	42.4点	43.2点
委員評価点(①+②)		720点	511.6点	513.0点
③価格点		80点	56.0点	80.0点
評価点合計(①+②+③)		800点	567.6点	593.0点

5 プロポーザルの経緯

時期	項目
令和7年2月17日(月)	第一回審査委員会
令和7年2月26日(水)	公募型プロポーザル公告
令和7年3月10日(月)	参加表明書等の提出(2者提出)
令和7年3月17日(月)	参加資格要件の審査結果通知
令和7年4月25日(金)	技術提案書等の提出(2者提出)
令和7年5月15日(木)	一次審査
令和7年5月21日(水)	二次審査